

「角田市第6次長期総合計画（案）」に関する意見等の概要及び市の考え方

No	事項	意見等の概要	市の考え方
1	全般的事項	<p>以前提出した「角田市第6次長期総合計画の策定に関する意見書」に私の所感として、本計画策定後は、市民に情報発信して周知徹底して頂きたい旨を述べた。令和3年11月21日にシンポジウムを開催するということなので、本計画に対する意気込みを感じるので、市民一体となって取り組む姿勢をもって取り組んで貰いたい。</p>	<p>本計画策定後の市民への情報発信に関するご意見につきまして、令和3年11月21日には角田市第6次長期総合計画シンポジウムを開催し、また、その内容を角田市公式YouTubeチャンネルで配信しております。計画策定後にも、広く市民の皆様と本計画の理念や方向性を共有するため、情報発信を継続していきたいと考えております。</p>
2	全般的事項	<p>基本構想及び基本計画に掲げているSDGsと本計画の関連だが、そもそもSDGsの言葉を聞いたことがあると答えた人は、日本国民の2人に1人と聞いている。それこそ詳しく理解している人は角田市民に何人いるのか？持続可能な開発目標（SDGs）とはどのような物かの説明が不可欠だと思うので、それに合わせてSDGsと本計画のかかわりを具体的に明記すべきではないか。</p>	<p>『自治体や企業、そして市民一人ひとりがSDGsの達成に向けて取り組むことが、「誰一人取り残さない」持続可能な地域を創り出す』ものであるという理解のもとで、SDGsが掲げる17のゴール（目標）と本計画の各種施策との関連付けを行うことで、角田市のどの活動が、SDGsの17のゴールと連動しているかを明記しております。</p>
3	<p>P120 基本計画 【分野別施策】 第6章 第2節 (3) 上下水道の整備</p>	<p>SDGsの17目標（アイコン）の一つにある6番目「安全な水とトイレを世界中に」に関連して、基本計画の「上下水道の整備」の項目に「現状と課題」として『「みやぎ型管理運営方式」の事業運営を注視していく必要があります。』とある。人口減少による料金収入減や配水管の老朽化による費用捻出削減は分かる。水は生命の源であるため、お金だけにとらわれず市民に対する説明を十分行って良い方向性を見出して頂きたい。</p>	<p>「みやぎ型管理運営方式」について、ご指摘のとおり「水は生命の源」であり、「経費削減だけにとらわれることなく良い方向を見出す」ことはとても重要なことだと考えております。なお、宮城県水道経営課では、ホームページでの情報発信をはじめ、「みやぎ型管理運営方式」に関する事業説明会を開催するなどの情報発信を継続しており、本市も受水団体として、「みやぎ型管理運営方式」の今後の展開を注視するとともに、市民の皆様に必要な情報の提供を行います。</p>
4	全般的事項	<p>本計画と第5次行財政集中改革プランは対象期間が前期は重なる訳だが、第5次行財政集中改革プランの第3章「持続可能な行政経営の実現に向けて」において、市の財政状況が改善されるまでの当分の間、投資的経費は原則抑制するとある。どう対処すれば良いのか理解出来ない。本計画を達成する為には、資金が必要だと思うので、どの様にしたら良いのか聞きたい。</p>	<p>第5次行財政集中改革プランの第3章に記載されているとおり、「投資的経費については、（中略）災害復旧事業、長寿命化対策事業及び防災減災対策事業等の真に必要なものを除き、原則抑制する」という考え方にに基づき、本計画は策定しております。</p> <p>本計画案P30～31基本構想「第3章 まちづくりの主要課題」では、本市が抱える様々な課題を網羅的に把握しており、その中には投資的経費も多く含まれています。しかしながら、本計画の計画期間である10年間で実施可能な事業量や、本市の財政状況も考慮すれば、「まちづくりの主要課題」の全てを計画期間中に実施することは不可能であり、基本構想で定める「まちづくりの基本理念」や「都市像」の実現のために、今後10年間で優先して実施すべき施策を選択し、「重点プロジェクト」にまとめ、今後実施していくこととしております。</p>

No	事項	意見等の概要	市の考え方
5	<p>P30～31 基本構想 第3章 まちづくりの主要課題</p>	<p>角田市第6次長期総合計画シンポジウムに参加した。その中で気が付いたことを述べる。 計画の中は美辞麗句を並べているが、具体性に乏しいと思う。以下に具体例を示す。</p> <p>課題1 市民が主役の地域資源を活用したまちづくり</p> <p>I 角田市の梅を利用した梅酒作り</p> <p>II 角田市の梅を利用した梅干しパン、梅干し羊羹 資金が必要な場合はインターネットを利用したクラウドファンディングの利用方法がある。</p> <p>III 角田市のお米を他の地域との競争を行うためのお米コンテストの開催</p> <p>IV ごちゃまぜプロジェクトの採用 老若男女問わず一緒に施設を作る。内閣府で推奨している。若い人のサポートが不可欠だが、工場の人等の協力を仰ぐこともあり得るし、学生にボランティアとして来てもらう。いざという時に高齢者の避難支援などにも活用できると思う。</p> <p>V ロボットスーツの導入 福祉分野での導入として腰痛予防のロボットスーツ等を扱っている会社がある。</p> <p>VI 阿武隈川の活用 阿武隈川を活用した事業等を考える。</p> <p>i 生態系の調査等</p> <p>ii ゴミの分布調査</p> <p>iii 遊覧船構想</p> <p>課題2 安全安心なまちづくり・気候変動への対応 目黒区と防災協定を結んでいるから、形だけで終わらせずに、相互に1年ずつ交代で互いの地域でそれぞれの課題となる防災訓練、角田の場合は水害、目黒区は首都直下地震であろうから、それぞれに防災担当の消防、警察、学校、市役所関係者を派遣し合い、いざという時の地政学的な条件の把握を行う。また相手側の防災訓練の長所・弱点を評価し合い、防災訓練の向上に努める。</p>	<p>角田市第6次長期総合計画シンポジウムの際には、これまで角田市長期総合計画審議会において協議を進めてきた「基本構想」及び「基本計画」のうち、「基本構想」の主な部分のみを概要版として作成し、ご説明をさせていただきました。</p> <p>なお、「基本構想」は、市政の基本理念であり、市の目指す都市像及び将来の基本目標を示すものであり、「基本計画」は、基本構想における都市像及び基本目標を踏まえた施策の基本的方向及び体系を示す計画となっています。</p> <p>いただいたご意見におきまして、本計画案P30～31基本構想「第3章 まちづくりの主要課題」に掲げた課題ごとに、たくさんのごアイデアをお示しいただきありがとうございました。</p> <p>これらのアイデアを実行可能なものとするためには、「誰が実施主体となり、どのような利害関係者との関わりのもとで実施するのか。」「事業費はどのように捻出するのか。」「持続可能な事業とするための事業内容の磨き上げ」などについて、多様な主体が参画して検討することが重要であると考えております。</p> <p>その考えを前提として、本計画案P37基本計画「重点プロジェクト①」の「1. 自ら進んで活動する市民の育成・支援」及びP91～92基本計画「分野別施策」の「第4章 第1節 (1) 住民自治による地域づくり」において、「市民からの提案による多様な主体が連携して実施するまちづくり事業」を支援する施策を掲げておりますので、ご提案いただいた多岐にわたる具体例についても、今後の市民力を活かしたまちづくりの参考にさせていただきます。</p> <p>最後に、「かく大學等で課題1～7の議論を続けてはどうか」というご提案ですが、「かく大學」は、市民の自発的で自由な学びの場として、それぞれの課題について探究するために開設しておりますので、ご了承ください。</p>

No	事項	意見等の概要	市の考え方
		<p>課題5 公共交通システムの存続・利便性向上</p> <p>I 自動運転バスの導入 角田市でも巡回サービスはあるが、これを自動化し、そのメンテナンス等にタクシー事業者を利用することが考えられる。</p> <p>II 阿武隈急行の自動運転 人件費削減につながる。その場合の運転手も電車のメンテナンス等に携わるとよい。</p> <p>課題6 魅力的な産業の振興と地域経済の活性化 愛媛大学等で植物工場の研究を行っている。角田市もビニールハウス等は見かけるが、もっと大型の工場を作る。そこに働く人も地元だけでなく、日本全国、世界にも手を広げてよい。</p> <p>国連の持続可能な開発目標として、まちづくり等17個のゴールを設定しているが、そのゴールに至る道のりはそれぞれの国の文化や殖産興業等に依存するところが多い。角田市の市民一人ひとりが持続可能な取組みを考えていけば、もっと多くの事業が可能となると思う。そのためにもかく大学等で、この課題1～7についての議論を続けていくのがよいのではないかと。</p> <p>その中で実現可能性のあるものが出てくれば、議員さん等も一緒になって殖産興業を起こし、米沢藩の上杉鷹山のように、角田市も全国に有名とどろくようなまちになって欲しいと思う。</p>	
6	<p>P 9 基本構想 第2章 第2節 角田市の特性</p>	<p>土着力（一例をあげれば、角田市に生まれた少年が成人になった時にふるさとを想起する力）を計画に持たせるために、P 9「角田市の特性」の箇所に、新しい項目を追加して、角田市出身者が自分のふるさとをどのように見ているかを記述する。</p>	<p>「土着力」について、非常に重要な視点であると認識しており、本計画においても、少子高齢化や人口減少が進行する中において、本市の若者が一度は角田市を離れても、いずれは帰郷し、又は関係人口として、ともに地域の担い手となっただけでなく、本計画案P 37基本計画「重点プロジェクト①」の「4. 将来を担う若い世代の育成」に「郷土への愛着や誇りを育む教育を推進」することを掲げております。</p>

No	事項	意見等の概要	市の考え方
7	<p>P 3 3 基本構想 第4章 第2節 角田市の都市像</p> <p>P 3 5 基本構想 第4章 第3節 重点プロジェクトと分野別施策</p>	<p>革新力（ものごとを新しく生み出す力）を持たせるために、革新する力を生み出していくイメージを以下のとおり記述する。</p> <p>I P 3 3 「角田市の都市像」の箇所に、脱皮しながら変わり続け変態して成熟するイメージを追加記述する。</p> <p>II P 3 5 施策の方向性の箇所に、自助・共助・公助をイメージしている記述にする。</p>	<p>「革新力」におけるIのイメージについて、本計画案P 3 3基本構想「第4章 第2節 角田市の都市像」において、本市の「人口減少が加速し、角田市が、時間の経過とともに縮小していくなか」でも「いきいきと、誇らしく暮らせるまちを目指すことが重要」とした上で、そのためには、「市民の力・民間の活力・地域資源を活かしたまちづくりを行うこと」「市民と行政が角田市を高め合える環境を整えること」が重要になります。角田市が縮小する中でも、成熟したまちとなるために必要不可欠なものとして、地域の課題について主体的に考え取り組む市民の行動力、即ち「市民力」が何よりも大切なものと位置付けており、同じイメージを共有させていただいていると考えております。</p> <p>IIのイメージについて、本計画案P 3 5基本構想「第4章 第3節 重点プロジェクトと分野別施策」の【地域共生】にかかる重点プロジェクトの「施策の方向性」には、「共助を公助することを通して、市民の生活と地域参加を支援」していくことを記載しております。そこには、「自助」の記述はございませんが、大前提として「自助・共助・公助」の考え方があった上で、【地域共生】を実現するために、今後取り組むべき方向性をお示ししておりますので、ご了承ください。</p>
8	<p>P 3 7 基本計画 【重点プロジェクト】 重点プロジェクト① 将来を見据え人を育み、活かすまちづくり【市民力】</p>	<p>訴求力（計画をより多くの市民に見てもらおう力）を持たせるために、以下のとおり記述する。</p> <p>I P 3 7 「重点プロジェクト① 将来を見据え人を育み、活かすまちづくり【市民力】」という表現を変更する。「まちづくり【市民力】」ではなく、「人を育む【市民づくり】」というイメージにする。そのためには、市民づくりを推進する主体を明確に記述する。現在ある組織（市職員、地区振興協議会、みやぎ仙南農協、角田土地改良区、農業振興公社等々）を改変して、市民づくりを推進するイメージを記述する。</p> <p>II 計画（案）に該当部分が見当たらないので、新しく次のようなイメージを表現する記述を追加する。例えば、用語の解説、先進事例（現在の角田市の事例、他市町村の事例－他県や外国、友好都市など－）</p>	<p>「訴求力」におけるIのイメージについて、本計画案においても「人づくり」「人材育成」という視点で同じイメージを共有させていただいていると考えております。本計画案P 3 7基本計画「重点プロジェクト①」の「1. 自ら進んで活動する市民の育成・支援」「3. 女性の活躍推進」「4. 将来を担う若い世代の育成」などの項目において、今後のまちづくりに重要な「人づくり」「人材育成」について記載しております。なお、今後それらの施策が効率的に推進できるように角田市役所における組織の改編も併せて検討していくこととなります。</p> <p>IIのイメージについて、掲載すべき内容のご提案をいただきましたが、「用語の解説」につきましては、現在作成中ですので冊子化する最終段階までには作成したいと考えております。また、先進事例については、他団体等の事例等も検討した上で、本計画案を策定しておりますので、計画自体には掲載する予定はございませんので、ご了承ください。</p>

No	事項	意見等の概要	市の考え方
9	全般的事項	<p>第5次長期総合計画の振り返りがよくわからない。一般的な計画書の作成のステップとしては以下が普通と思っている。</p> <p>I 前期計画の振り返り 特に数値目標達成の振り返りが大切</p> <p>II その中で未達の課題を抽出して原因分析を行う</p> <p>III それ以降に新たに発生した課題を意見収集など通じて摘出する</p> <p>IV 同時に角田市の強みや弱みなどを分析する</p> <p>V 同時に同規模や状況の他市町村の情報を収集する</p> <p>VI これらを基にトップが全体の方向性を示していく（基本方針と全体目標値の設定）</p> <p>VII それを受けて、具体的施策にまとめていく</p> <p>VIII 全体目標を受けて個々の施策の目標値を策定していく</p> <p>このI～Vが骨子ではよく見えないので本当に達成可能な計画になるか心配である。</p>	<p>ご指摘いただいた計画書作成のステップについて、当該項目は全て実施した上で本計画案を策定しております。本計画の策定に際しては、角田市長の諮問機関として角田市長期総合計画審議会を設置しております。その会議資料の中で、様々な分析結果等を掲載し説明を行った上で協議を進めております。（当該資料は、市ホームページ上にも掲載しております。）</p>
10	全般的事項	<p>全体目標の落とし込みがよくわからない。計画書は目標値が有って計画というのだと思うが、全体目標からの落とし込みが見えない。</p> <p>全体目標は分析からすると2065年までに3,000人の人口増を図る事に見える。その場合は、毎年約75人ずつ増やす施策が必要になるがその記述が見えない。</p> <p>企業誘致などもあるがそれによる人員増の目標が記載されていない。</p> <p>これでは具体的施策とは言えない。</p>	<p>「全体目標の落とし込み」につきまして、本計画の基本構想部分は、本市の基本的な理念や、市の目指す都市像及び将来の基本目標を示すもの（角田市長期総合計画条例第2条）となっており、それらは本計画案P32基本構想「第4章 第1節 まちづくりの基本理念」及びP33基本構想「第4章 第2節 角田市の都市像」であり、それらを踏まえた具体的施策の概要をP35基本構想「第4章 第3節 重点プロジェクトと分野別施策」に掲載しております。なお、それらの施策の目標値については、基本構想ではなく基本計画に掲げる「重点プロジェクト」及び「分野別施策」の項目ごとに設定しておりますのでご確認ください。</p>
11	全般的事項	<p>人口構成に伴う、市への収入がいくらになるのかが見えず心配である。</p> <p>高齢化の中で支援費用が必要になると思うが財源がなくて施策が打てないのではないか。</p> <p>このため、人口比率の計算と収入額、施策の為の必要との相関をどうとるか検討が必要である。</p>	<p>本計画の計画期間は10年間であり、計画策定に際しては、当該10年間の「財政計画」も併せて策定中です。「財政計画」は、計画期間10年間における市の歳入・歳出を、現時点における各種制度をベースに策定しているものになります。</p> <p>なお、本計画案P18基本構想「第2章 第3節 人口の将来展望（人口ビジョン）」において、2065年時点の角田市の将来人口を推計した結果を掲載しておりますが、本計画案の策定に当たり、角田市の人口動態を捕捉した上で、今後の施策展開を検討するための資料として位置付けており、2065年までの計画を想定しているものではございませんので、ご了承ください。</p>

No	事項	意見等の概要	市の考え方
12	全般的事項	<p>収入増加の為には企業誘致が必要ではないか。</p> <p>I 現状の大型企業は過去の誘致の賜物であるが、過去の誘致企業はどんどん自動化を図って人員を使わないで生産性を上げていく施策を取っている。つまり、過去の労働集約型の企業ではなくなっている。</p> <p>II 自動機を使えるオペレーターやメンテナサーを必要としているが、角田市の学校施策の中にはそれが見えないために市外から集めざるを得ない状況ではないかと思ってしまう。</p> <p>III 企業は世界と戦っているために必要であれば海外展開を常に考えている。よって、いつまでも同一地域にいるとは言えない。いなくなる危機感を持つ必要がある。</p> <p>IV 新しい企業誘致で市の人口を増やすには過去の企業では難しい。どういう企業を誘致するか考える必要がある。</p> <p>V 同時に住居やインフラの整備（渋滞の解消、高速へのアクセス、新幹線へのアクセス）などがされないと企業は出てこない。企業は国内全体を見て立地条件の良い処を探して展開を検討している。新幹線の駅、高速のICなどに近くてかつ既に工業団地が準備されている処に展開している事例が多い。</p> <p>これは一部であるが、もっと企業の意見を直接聞いていくことが大切と思われる。インターネットを使った会社もあるが、それこそ角田でなくてもいいと思っているはずである。個人の企業でも全体の人口減をカバーはできないと思う。</p>	<p>「企業誘致が必要」とのご指摘は、本計画においても重要な視点であると認識しており、本計画案P83基本計画「分野別施策」の「第3章 第2節 (2) 企業立地の振興」の項目において、その施策の方向性をお示ししており、新たな産業用地の確保に努め、企業誘致を促進していくこととしており、誘致する企業の業種等については今後検討していくこととしております。</p>
13	全般的事項	<p>グローバル化はどう考えるか。</p> <p>観光に関してのインバウンドの受け入れ態勢はどうするか。その人材をどう育てていくのかを具体化しないといけない。</p> <p>また、グローバル企業をどう誘致していくかも今のままではできないのではないか。</p> <p>角田の大手企業のOBには海外経験の豊富な人が多いが、実際にはそのノウハウを生かす場所がなく働いてない。今のシルバー人材センターではその受け皿もなくもったいないと思う。</p>	<p>グローバル化、インバウンド対応等について、ご指摘のとおり、今後、本市においても国際化が進展することが予想されます。本計画案上は、多様性を意味する「ダイバーシティ」の視点を企業や団体と共有できるよう普及啓発活動を推進することとしておりますが、具体的な取組みについては、10年間の優先的な取組みとしては明記しておりません。</p> <p>「市内大手企業のOBのノウハウを生かす場所がなく働いていない」という現状につきまして、シルバー人材センターの事業に活路を見出すのか、どのようにすればノウハウを生かす場を創出できるのか、是非、企業OBの皆様の市民力を活かして活躍できる場について、今後実施する市民提案型まちづくり事業等を活用していただき、ご提案いただければ幸いです。</p>

No	事項	意見等の概要	市の考え方
14	全般的事項	<p>市町村合併の検討が必要ではないか。</p> <p>人口が14,000人位では市として成り立たないと思われる。</p> <p>仙南地域広域行政事務組合では2市7町が入っているが、市の規模も見直していくべきではないか。</p> <p>特に、仙南では白石市が新幹線駅と高速ICを持っているのでそこの合併も検討してはどうかと思う。他の市町村も同様に人口減で施策を打つ為の資金が不足するはずであり、その打開策としてもこの長期計画で検討が必要なのではないかと思う。</p> <p>縮小均衡策では元気が出ないと思う。拡大均衡も合わせた長期計画が必要ではないか。</p>	<p>「市町村合併の検討が必要ではないか」とのご指摘について、角田市が市として存続するための人口規模については検討しておりませんが、今後、人口減少が進行する中で、市町村合併についても必要に応じて協議する必要は出てくるものと考えております。</p> <p>仙南地域広域行政事務組合は、合併を協議するための機関ではなく、あくまで一部事務組合となりますので、合併協議会等を設置した上で協議を進めることとなります。</p> <p>なお、角田市の持続可能なまちづくりを前提に協議を進めており、市町村合併について本計画上の議論の対象とはしておりませんので、ご了承ください。</p>